

新型コロナウイルス COVID-19 当院の心得 ～当院院内感染対策委員会より～

12月下旬、やまがた医療緊急事態宣言が発令されました。この宣言を受け、いま私たちにできることは何でしょうか？と当院の院内感染対策委員会から以下8項目の心得が発令され、今一度気持ちを引き締め直しました。

- *「感染しない、感染させない」。雪が溶ける来年の春までは、旅行を控えてください。不要不急の旅行でしょうか。旅行で感染したらどれほどの影響が出るのかを想像してください。もし自分が感染源になった場合、落ち込むのはあなたです。
- *外食は同居家族のみで飲酒なしで楽しんでください。アルコール入りの会話は、広く飛沫をまき散らします。
- *普段の体調管理には十分気を付けてください。コロナの駆逐は体力勝負です。
- *使い捨て手袋の使用には慣れてくださったでしょうか？
- *もし我が家で家庭内感染が起きたらどうしよう？と、いつも考えてください。ご家族との対話のなかで、新型コロナウイルスについても話題にしてください。あなたを支えられるのはご家族だけです。
- *仕事先への訪問では、先方とも地域の感染情報を共有してください。
- *マスク着用、手洗いと手指消毒、換気の施行、3密回避、そして2mの距離を保ちましょう。
- *情けは人の為ならず。COVID-19の渦中で苦しむ人々への同情と励ます気持ちを忘れずに。

以上、命を救おうと高潔な願いを抱いて日々看護に臨む同業者に敬意を表し、我々も日々危機感を持って過ごし勇気と愛が報われるように祈ります。



スタッフ紹介

土門洋子 2病棟介護員
 2020年12月に入职しました。仕事は覚えることがたくさんあり、戸惑うこともあります。教えてもらっていることを一つ一つ確認しながら、患者様のために頑張っていきたいと思えます。あと、こちらで出会えた方々とのご縁を大切にしながら仕事に励んでいきたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

伊藤南 医事課
 12月より医事課に配属になりました。慣れないことばかりですが少しでも早く仕事を覚えて頑張ります。患者様には良い印象を持っていただけるような対応を心掛けていきたいです。一人でも多く、また一日も早く患者さんのお顔と名前を覚えてられるようにそして私の名前も覚えて頂けるように頑張ります。どうぞよろしくお願ひいたします。

先が見えないコロナ禍ですが、予防を心掛け一日も早い収束を祈ります。頑張りましょう。



も延期され、安部首相の退陣もあり、人の移動も制約されて日本経済活動も沈滞期に入ったかと思われました。何と今も今は、新型コロナウイルスの問題解決が焦眉の急となっております。

そのような中でオリンピックも延期され、安部首相の退陣もあり、人の移動も制約されて日本経済活動も沈滞期に入ったかと思われました。何と今も今は、新型コロナウイルスの問題解決が焦眉の急となっております。



順仁堂遊佐病院 院長 佐藤 卓

令和二年の 新年を迎えて



すが、それらは人類誕生の遙か以前の原始の時代より存在しています。しかも現代においてのその数は何と、全宇宙の星の数より多いだろうと研究者が言っています。そしてこれらのウイルスたちは、実は人間や動物の進化に多くの推進力となってきたと言われています。ウイルス自体が人類にも特別な遺伝子を受け、人の命を守ってきたと考えられています。例えば哺乳類の持つ胎盤は、ウイルスが外から入り込み運び入れた遺伝子によって作られたものだと近年の研究で分かっています。しかしウイルス自体は、自身だけでは生き延びて繁殖することは出来ません。この点で一般的な細菌とは異なります。他の生命体の中でのみでしか生き出来ない運命なのです。であるならばウイルスと言う生命体は本来、人間などの宿主を死滅させることは避けたいはずなのです。

人類の歴史は必然と偶然との繰り返して今日に繋がっております。生態系のその進化の過程において、重要な役割を果たしてきていたのがウイルスであったと思われまます。現在世の中には数えきれないほどのウイルスがあるわけ

ですが、その中で登場してきた新型コロナウイルスは昨年未だ全世界で九千万人近くが罹患し、百九十万人以上の患者が命を落としました。しかしワクチン開発が進展し、治療のレジームが確立することにより希望が生まれています。それは近い将来の新型コロナウイルスの制圧を十分に予感させるものでもあります。

ウイルスとの戦いの中でその制圧に成功した事例としては、天然痘ウイルスの一例があります。この致死性の天然痘は日本では紀元735年頃の天平年間発生した記録があり、痘瘡や痘瘡とも呼ばれて恐れられてきました。感染しても死亡率は高く、生き残ることが出来てもその後遺症に人々苦しめ続けてきたわけです。失明もその一つの後遺症で、有名な話としては独眼竜政宗のケースが知られています。そのウイルスの発生源は西暦三百年頃であるとされ、長い年月の感染が繰り返されてきており二十世紀だけで約五億人の人命が失われたと言われています。しかし現在ではどうでしょうか。十八世紀になってワクチン生成につながった種痘の知識が、イギリスの外科医ジェンナーの発見によりもたらされました。そして予防接種の徹底により遂には、1980年にWHOが天然痘の根絶を宣言したのでした。

当地遊佐においては順仁堂を冠した病院の開祖である佐藤意泉が、佐倉順天堂の医塾で教授された種痘術を地域の人々に施して天然痘の蔓延を防いだと言ったことがありました。意泉は私どもの世代の高祖父となる人物ですが、病院玄関前に建つ銅像である国蔵(日本点字楽譜の祖)の父親にあたりまます。国蔵は医学士時代に、

では今年も皆さん、力を合わせて一年を乗り切つて参りましょう。朝の来ない夜はありません。朝日は必ず昇ってくるはずですよ。一年の始まりです。どうぞよろしくお願ひいたします。

角膜混濁をきたした虹彩炎で一時失明したと伝えられていたが、私は角膜ヘルペスの罹患がきっかけのことだったのでないかと推測しています。ウイルス感染に細菌感染が重なったのか、虹彩の水晶体への強い炎症性癒着があったのかもしれません。当時の帝大附属病院で、虹彩癒着剥離と切除術を受けて視力回復をみたことはそのことを物語っていると思えます。

新型コロナウイルスの実態を把握するには、まだまだ多くの解明が必要で。なぜ世界では、地域的な罹患率や重症度が違うのか？ 老若男女と言った年齢の差は？ そして人種の差は果たしてどうしてなのか？ などなど多くの疑問があります。とにかくこれらウイルスが、人の免疫システムをうまくすり抜けて繁殖していることは事実なのです。手強いこのウイルスは、人類にとっての宿痾をもたらし続けていることは確かです。しかし現在世界中の研究者たちは、昼夜分かたずこのウイルスの根絶あるいは制御がもたらされることと私は信じております。今年には丑年である馬のように風を切って疾走することも時には大切なことです。しかしそれよりもゆっくりとしかし確実に大地を踏みしめて前進する牛の歩みのような研究の方が、より大きな成果をもたらしてくれるような気もしています。